

アジア内視鏡人材育成支援大学コンソーシアム構想

【現状・背景】 2004年より、これまでの12年間、消化器内視鏡・内視鏡外科分野において、タイ、ベトナムなどのアジア地域を中心として人材育成に取り組み実績を積んできたところである。今般、その活動を、更に、オールジャパン体制で加速させるため、先導的な大学が集まり、コンソーシアム体制を組むこととなった。

【目的】 内視鏡医療分野における先導的な大学がコンソーシアムを構成し、それら大学の連携により、医療技術及び教育指導等の共有化を促進させる体制を構築し、日本が世界に誇る医療技術の一つである内視鏡技術をアジアに普及させることに努めるとともに、高度な医療技術を持った人材の育成を支援し、もって我が国の高等教育及び学術研究の発展に寄与する。

アジア内視鏡人材育成支援大学コンソーシアム

University Consortium for Development of Endoscopy and Laparoscopic Surgery in Asia
(UCDELSA)

大分大学【事務局】 大阪大学、北里大学、九州大学、京都大学、近畿大学、慶應義塾大学、神戸大学、国際医療福祉大学、埼玉医科大学、帝京大学、東京大学、東京慈恵会医科大学、東邦大学

【事業内容】

- 専門家派遣
- 研修生受入れ
- ・ 日本の消化器内視鏡診断基準
- ・ 早期胃がん病理診断
- ・ 内視鏡外科実習



A-PSDE

Asian Pacific Society
for Digestive Endoscopy

(NPO in Hong Kong)



(NPO in Thailand)

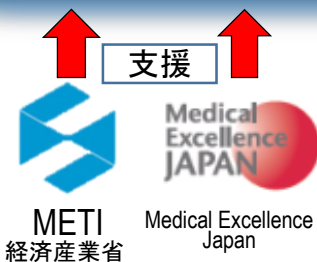
President: Seigo Kitano

連携

【学 会】

- ・ 日本消化器内視鏡学会
- ・ 日本内視鏡外科学会

支援



アジア地域の内視鏡技術の普及/人材育成